

ムダにムダを重ねる徳山ダム「導水路」はいらない！

導水路はいらない！愛知の会

会報 16号-1

2012年11月03日

〒467-0853

名古屋市瑞穂区内浜町1-15

加藤 伸久方

TEL/FAX 052-811-8069

URL: <http://www.dousuiro-aichi.org/>

—原告・被告の代理人が証人喚問の方法、裁判の争点を協議の「進行協議」開催！—

原告側は“新規利水・正常流量とも「導水路」は不要”と陳述

提訴（2009年6月）から丸3年、15回にわたる口頭弁論で双方の主張はほぼ出尽くし、証人尋問をどうするか段階にさしかかりましたが、4月に着任の福井裁判長のもと、今後の裁判の流れについて協議を深める進行協議が行われました。

第1回進行協議は6月26日（火）に開催。双方が互いに本件裁判のスタンスを開陳しました。なお、原告側は、裁判所に提訴理由を深く理解いただくよう、「上申書」（別冊収録）を提出。続く9月25日（火）に開催の第2回進行協議の場で、「新規利水の必要性がないことー愛知用水地域の水需想定」（同収録）、及び「正常流量の問題点について」（同収録）を用いて、「導水路」は不要と完璧なまでに陳述しました。



併せて、被告側喚問の愛知県土地水資源課 中根俊樹 主幹について人証申請と尋問事項書（同収録）、専門家証人・山内克典 岐阜大名誉教授の陳述書（同収録）を提出しました。

“被告・愛知県は撤退権を持ちながら支出義務がある”と頑迷に強弁！

被告・愛知県はこれに対し、県民意識と全く異次元の「木曽川水系連絡導水路事業公金差止請求事件における争点について」（同収録）を提出、陳述しました。



冒頭、著しく合理性を欠いていて予算執行の適正確保の見地から看過できない事業実施計画の瑕疵や財政法規違反があり、支出は違法とする差止請求は“独自の見解”かつ“失当”と決めつけました。

また、撤退権があるのに、法令に基づいて（「木曽川水系フルプラン」「同河川整備基本方針」「同河川整備計画」「連絡導水路事業実施計画」）、県に支出義務があると主張しています。

まったくもって、県民が生活の現実フィールドと乖離しています。県民の意識は“必要のない「事業」には税金を投入すべきでない、撤退すべき”です。それが常識です。

- P 1 ……「進行協議」の場で、原告・被告の代理人が、証人喚問の方法・争点を陳述
P 2～3 …… **投稿** 川辺川ダム「勝利集会」&撤去間近「荒瀬ダム」を訪ねて 加藤 伸久共同代表
P 4 ……ダム・水に関わる「新聞」スクラップ（名古屋市水道局「地下水利用で約8億減収」他）
P 5～6 ……ブックレット・書籍の案内、裁判傍聴&イベント参加のお願い

◇ 第3回進行協議に積極参加を！（注、原告のみ参加が可能です）

- ◆と き 11月27日（火）午後2時30分～（※午後2時～2時15分・裁判所庁舎1階ロビー集合）
- ◆と ころ 事務棟（裁判所庁舎・東側部分）・第411号審尋室
- ◆協議内容 ① 証人尋問をどうするか協議（尋問時間の確認・検討）
② 大要＜撤退は愛知県の“裁量権”、法令「撤退ルール」で可能＞との準備書面を提出

8月18日（土）開催の「川辺川ダム反対運動勝利集会」に参加し、併せて撤去工事前の荒瀬ダムを見学したく、長良川市民学習会・事務局長の武藤さんと熊本県に行ってきました。



主催 川辺川現地調査実行委員会

川辺川ダムの建設中止は、ダムによる国策に対して、ダムによらない治水・利水に向け大きく舵を切らせようとしています。また、熊本県に対しても荒瀬ダム撤去や五木ダム中止と、確実に脱ダム政策をとらせています。なぜ、川辺川ダム反対や荒瀬ダム撤去の運動は勝利したのか？かねてから現地に行ってみたいと思っていました。



「集会」は、相良村体育館で開かれました。会場は開会前から、真夏の太陽の下で労働した日焼け顔の市民が約 200 名で一杯です。

第 1 部の勝利集会では、これまで川辺川ダム反対運動に関わってきた、研究者、弁護士、僧侶、農民、漁民、水害体験者、アウトドア派、等々それぞれダムに反対する理由は異なっていますが、“みんなの力で勝ち取ったものは、みんなで喜びたい”と力強くスピーチしました。



第 2 部は、3 人のパネラーによるシンポジウムです。最初のパネラーは、反対運動を共にする中から「まともな学者」の在り様を実践的に見出そうとしてきた、中島 一郎・熊本県立大学名誉教授です。

中島名誉教授は、川辺川ダム反対運動の最終勝利は、① 「ダム無し」治水対策の実現 ② 国の責任で農業用水の改修・活用、畑地灌漑の実現など “身の丈にあった” 利水事業の実現 ③ 半世紀以上にわたってダムに翻弄されてきた五木村の再生・復興 と語りかけました。



続くパネラーは、川辺川利水訴訟・弁護団長の板井 優弁護士です。板井弁護士が力説したのは、2012 年 3 月に閣議決定・国会上程された、五木村の生活再建をモデルの「ダム事業の廃止に伴う特定地域の振興に関する特別措置法案」を活用しての地域振興策です。

ところが、6 月に前田国交大臣（当時）が更迭されるという内閣改造と、消費税引き上げ法案をめぐる与野三党のゴタゴタ騒ぎから、国会会期を 9 月に大幅延期という中でも法案は不成立となりました。



最後のパネラーは、これまで長期にわたってダム問題に翻弄され、今なお混迷している球磨川の上流部・五木村の木下 丈二副村長です。

副村長は穏やかな口調で、“ダム建設事業が宙に浮いた状況のなか、40 数年かけ議論し、県・国と交わした約束は一体何であったのか。約束を果たせない責任は、誰がどのように取れるのか” “今後は今までと逆に、人口増加と産業振興を図ることになるが、その柱は「三者合意」による村の再生振興” “小さくても光り輝く村に立て直したい” との生々しいお話に、参加者は深く聞き入り、会場は身の引き締まる雰囲気になりました。

8 / 19 読売新聞朝刊・熊本南版

五木村の再生考えるシンポジウム
川辺川ダム反対運動勝利集会
川辺川ダム事業に反対する住民団体などで構成する「川辺川現地調査実行委員会」は18日、相良村総合体育館で、五木村や球磨川流域の再生を考えるシンポジウムを開いた。地元的生活再建を支援する特別措置法案が3月に閣議決定されたことを受け、川辺川ダム反対運動勝利集会として開催。県内外から約200人が参加した。川辺川利水訴訟弁護団長を務める板井優弁護士や木下丈二・五木村副村長らが討論した。板井弁護士は「ダムが住民運動の力で止まったというのを、今も公共事業で川辺川ダムの建設中止とダ

「川辺川ダム反対運動勝利集会」として開催。県内外から約200人が参加した。川辺川利水訴訟弁護団長を務める板井優弁護士や木下丈二・五木村副村長らが討論した。板井弁護士は「ダムが住民運動の力で止まったというのを、今も公共事業で川辺川ダムの建設中止とダ

苦しめられている住民に知らせるべき」と指摘。木下副村長は「村民にとってはダム問題は、勝った、負けたということではない。今よりよい暮らしをいかに次の世代で実現するかという思いしかない」と述べた。最後に、「長年の闘いで、川辺川ダムの建設中止とダ

ムによる利水事業の断念という大きな成果を勝ち取ることができた。ダムのない社会を目指していく」とする「勝利集会宣言」を採択した。

夜の「勝利祝賀会」（懇親会）は、“お恐れ多くも畏くも” 国宝青井阿蘇神社（人吉市）



の参集殿に約 50 人が駆けつけて行われました。

祝賀会は、初対面の私どもを輪に加え、まるで全国各地の脱ダム運動の同志が集う“決起集会”の様相です。

懇親会出席者は、差し入れの手作り料理に舌鼓を打ち、地酒や焼酎の杯を重ねるごとに、ここでしか話せない“武勇伝”や、団体間の誤解や内輪もめ、例会に人が集まらないなどの“苦労話”、はては世界情勢から地域社会まで、夜の更けるのも忘れて大いに盛り上がりました。



翌 19 日（日）は、川辺川ダム問題と環境問題に取り組む“市民運動の担い手”つる 詳子さん（自然観察指導員熊本県連絡会副会長）が作成の小冊子「荒瀬ダム問題と球磨川の再生」（詳しい情報は、つる 詳子さんのブログ <http://kumagawa-yatusirokai.cocolog-nifty.com/> を参照のこと）をテキストに、“ダムのない清流”川辺川ダムと、“ダムがある急流”球磨川を上流から八代海河口までの現地見学ツアーです。

川辺川中流域のダム建設予定地付近は谷も深く、手つかずの自然の河川の形態そのままです。環境省の水質日本一にも認定される清流・川辺川の水量が実質、球磨川を支えています。



次は、球磨川上流にある市房ダム（所有者：熊本県、洪水調整・灌漑・発電を目的に 1959 年完成）で、ダムの放水が下流の水害を大きくし、球磨川の清流をなくしました。



春には桜の名所として名高い市房ダムも汚れはすごく、2003 年 9 月には水質改善を目的に、高さ約 80 ㎝の大噴水装置が設置されました。

車は川下の瀬戸石ダム（所有者：J-POWER、発電を目的に 1958 年完成、2014 年に水利権の更新期限を迎える）へ到着しました。河口に近い荒瀬ダム（約 7 ㎞上流）に隠れて注目度は低いものの、現地へ行けば一目瞭然。荒瀬ダムと連携して、ダム湖の水面上昇で水害をまねき、魚族の遡上を阻害、ダム湖一面に広がるアオコによる水質悪化など、大きな問題を抱えています。



さらに車は、川下の荒瀬ダムへ向かいます。荒瀬ダムは、今回見学ツアーのメインです。日本初のダム撤去工事（9 月に予定）を前に、ダムゲートは全面開放。ダムサイトから放流現場を見上げると、滝の如く流れ落ちる水流は轟音を奏で、生じた風に煽られた水飛沫は遠く離れた見学者の顔や足下へ飛び散ります。

感動的で、武者震いにちかいものを覚えます。頭の中では突然、長良河口堰の開門がシュミレーションされます。

ゲート全開に伴いダム湖は消滅、蛇行した流れが生じていました。私たちが出向いた上流の支流では、川遊びが出来る瀬と砂地が出現していました。



ツアー終点は、球磨川河口・不知火海の干潟です。河口の堤防越しに見渡す限りの泥干潟には砂が供給され、遠浅のはるか彼方で、漁にあたる小舟が遠望できました。

ゲート開放は、確実に球磨川の水環境を改善しています。地元では、川辺川ダム反対運動や荒瀬ダム撤去運動に引き続き、市房ダム・瀬戸石ダムを撤去し、流域の森林再生に取り組み、球磨川再生に挑戦しています。現地の人々から“元気をいただいた”ツアーでした。

ダム長命化時代 注目 of 撤去作業

清流復活の兆し 熊本・荒瀬ダム

大型ダムとしては全国で初めての大規模な水質の調査が実施された。調査結果から、熊本県の河川で汚染が認められている。1955年建設の「阿蘇湖ダム」(大分県)は清流に伴う水質の改善など影響を抑制するために、収集・分析しながら清流の復活を目指す。各地のコンクリート型ダムは、修年間の間にたまった死土や砂を取り除き「長寿化」をどう図るかが課題となっており、荒瀬ダム建設が生かせるのではと専門家は期待する。

写真＝大分県

【取違剛、写真も】

[illegible]

県は、環境と水の土壌と水
 質と川の治水、動植物の生態
 がどう変わるかを環境と水とい
 うを結びつけて、とらえて建設
 前の河川図を参考に、土砂の分
 布なども調べる。調査後の18
 年、河川図も調査が続く。
 「図と水の両面からとらえて
 の新訳が難しい。長期運用が
 主眼だ。いろいろなところ、
 戦後から高度成長期にかけて
 建設されたものが多く、河川に

との破壊が進む。熊本県の荒
類々大搬出オロアツク専
門委員会一處で、女々の身
命化を研究している有紀田
・京都防災研究所水質環境
増研究センター教授は「堆積
土砂の除去や河川内での作業
など女々の搬出と身命化は
に同じ工程が多い。熊本県
が擔持するデータは今後あら
ゆる々々に生きている」と期待し
ている。

水道事業

節水で過剰投資を防げ

家庭などの需要に効果をあげてゐる。7月は全国で前年から12%余の販賣電力が減つた。原発事故が起した東京電力管内では、やはり販賣電を呼びかけた昨年より14%も少ない。

電力会社の需要電に取り組んだためではあるが、電を返すことも言ふ。『電力の安供給』を掲げる電力会社任せにすべき結果、必要以上の過剰は容認されてきた――。

自然が供給する水道も、同じことが言える。

最大の水道事業者である東京都水道局が、9年ごとに供給する量を固定した。人口減をみずして平準化する方針を、初めて石原正房の予則を改めて将来の減少を言ひだした。

これはよく、需要のピークは「2020年度の1日あたり約600万t」。これに対し、10年度の実績は490万t、つまり

す。77年度のものと比べると、少くとも割に多い。冒頭に「全く全全」とある。

満洲に於ける砂鉄は河川利用の量に増につかた。今後、既許の砂鉄場などの更新が、必ず必要となることだ。社会主義的利用者の意識の改変を、この機会に促し、工として河川の取り組を喚起すべきだ。

水道の鑑別調査は、次のような手順を踏む。

生活工場及び農園に一日あたり平均毎戸量の夏冬を出す。標本水を準備し、使用のとき時に標本を修正する。平均値は、このデータを河川で夏冬はみればよい。

高麗花田舎村、東宮郷の農高麗花は77年度の1.25倍。桜葉は昨年傾向であり、昨年度は1.1倍。農家の鑑別がつかまぬとみてよいかもしれない。

東宮郷は今回の推計で77年度

[illegible]

境

[illegible]

の2年、地元の本村（現八代市）が隣に搬遷した。ダムが建設される前は糸川川には毎年数千人ものいれる人が遊んでいたが、ダム建設後にダム湖にくぼりがたまり、悪臭など環境が悪化。漁獲量が激減した。県は10年ほど前に地盤を最終決断。企業局の内部留保金や国の交付金などから事業費用8億円を上回った。

此等文

熊本県が1916年に建設した筑豊専用タム。高
 さは約40m、幅が10・8m。築造率は0・037/1
 0万t/m。近の筑豊所に築きたかつては熊本県内の
 電力供給網の中心となっていたが、1954年に上巻の
 断つてた。築造時に許容した地
 面沈下をめぐり、8年に明治造船
 知事が敗訴に突き進んだ。三ツと
 かかかると筑豊専用知事がいっ
 たんは折回した。筑豊川流域
 が水利権争奪の場となり、10年に筑豊
 県を設けた。熊本は筑豊川流域
 への橋（ひきこ）タムなど小橋
 タムには未だ少ない。河川法で
 規定されるくさく（高さ15m以
 上）は初。



地下水利用 ああ7億9000万円分…

名古屋市の環境と大規模小売店舗等の事業
者による地下水の利用が、市や水道局職人に
置き換えられ、七億九千五百万円にまで減少した。これは緊縮により設置された浄水場の施設を早期回復できず、汚染地域にもつながるため対応に苦慮している。

名古屋市上下水道局 対応に苦慮

十九日の市議会本会議で、**松井良徳議員**（員民、守山区）の個人質問に、**谷川和司**上下水道局長が答えた。

松谷川局長によると、市内に水道を多量に使用する事業者を中心に、地下水を利用する「**地下水利用型水道**」の導入が進んでいる。局長は「二〇一二年までの地下水利用専

用水者の利用分を料金収
入に置き換えること七億九
千万円程度と見込まれ
る。(一)のま主利用が増加
すると、ますます料金収
入が減少する」と述べ
た。

市は事業者との給水契
約がある以上、契約した
口数に見合った水道水を
供給する義務が水道法で
事業者の型に水利用が第

る。水道水利が滅びてしまい、口徑に見合った水道施設の費用が回収できなくなる。

大口事業者の地下水利専用導管を導入する市など水道事業者の減収は、全国的課題となっている。市は地下水利専用導管を設置した事業者に対して一定の負担を求められる。大都市水道事業をめぐって、国と市との間で協議は進んでいる。

◆◆◆フックレット・書籍のご案内◆◆◆

—大好評・発売中！ <風媒社刊> 68 ページ・定価 630 円（消費税込み）
中谷雄二・近藤ゆり子著 「これでわかる！秘密保全法の本当のヒミツ」

<問合わせ先：愛知県弁護士会（052-203-1651、HP <http://aiben.jp/top.html>）>



「導水路」裁判においても、「情報公開法」に基づいて関係資料を開示請求することで入手できます。ムダな公共事業の違法性を立証する証拠資料はとても重要です。

書評……濱嶋 将周 弁護士

（「秘密保全法に反対する愛知の会」事務局長・「導水路」裁判弁護団）

分量も値段もお手頃なブックレット。秘密保全法制のネライは？秘密保全法が成立した後どんな世の中になるか？政府が教えてくれない本当のところを、過去から現在に至る日本や諸外国の実例を分析して、分かりやすく教えてくれます。是非ご一読ください。

—官僚も、ジャーナリズムも、そして裁判所までが！ 東京図書出版発行>—
元朝日新聞記者 吉竹幸則著「報道弾圧」 346 ページ・定価（本体 1600 円＋税）

<問合わせ先：東京図書出版（TEL 03-3823-9170、FAX 0120-41-8080）>



著者は 1987 年以来「河口堰」報道に携わり、取材の結果、堰建設の根拠を疑わせるデータを得るが、繰り返しの要請にも関わらず、配置換え・転勤などにあい、肝心の記事は何年も棚ざらし……

著者は 2008 年、報道権を奪った会社に対し、謝罪措置と損害賠償を求めて提訴するも、著者曰く“デッチ上げ判決”で敗訴した。

書評……田中 萬壽 運営委員

著者はこの本で、20 年にわたった無念の想いを、“建設省の闇”、“朝日の闇”、“裁判所の闇”などの 3 部で詳述。建設から 18 年を経て、昨年より愛知県が開門調査委員会を設置し、環境改善に向けて検討が始まっている。検証作業に本書も貴重な役割を果たすと思われる。

—ダムがもたらす環境破壊—<花伝社発行>67 ページ（定価 800 円＋税）

川辺川ダム問題ブックレット編集委員会……編「川辺川ダムはいらん！PART②」

<問合わせ先：「子守の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会」事務局（中島宅 096-324-5762）>



清流・川辺川を未来に残そうという長年の「ダム運動」の闘いは、ダムの建設中止と利水事業の断念という大きな成果を勝ち取りました。

市民運動・自然観察指導員のつる 詳子さんによれば、

川辺川ダム運動がダム中止にむすびつくほどに広がることが出来たのは、

- ① 流域にダムや堰が出来ると水害がひどくなること、② これ以上のダムは要らないという住民の思い、③ ダムからの水は要らないという農民④ かつてのアユや魚介類の豊富さを知っている球磨川と不知火海の漁民の強い反発があったから ということです。

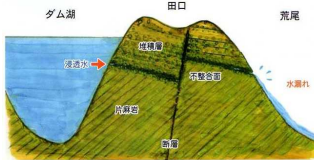
本書は、川辺川の豊かな自然と、ダムがもたらす環境破壊をわかりやすく解説したものです

◆◆◆裁判傍聴&イベント参加などの御願い◆◆◆

—総事業費3千億円のムダな「設楽ダム」は中止し、東北大震災の復旧復興に回せ!—

① 12/20(木)「設楽ダムの建設中止を求める」控訴審・第11回口頭弁論

＜問合わせ先 ①・②とも「設楽ダムの建設中止を求める会」事務局（奥宮宅 0532-54-7305）＞



これまで住民側が強く求めていた「現地検証」について、先の第10回口頭弁論の場において裁判官3名は別室で合議して、“不要”と答える愛知県に追随し、“実施しない”と決めました。

その上で、今後の進め方について、裁判所が資料を確認するために、もう一度口頭弁論を行うとして、結審の日程を決めました。

◆次回口頭弁論 とき・ところ：午前11時30分～ 名古屋高裁・1号大法廷

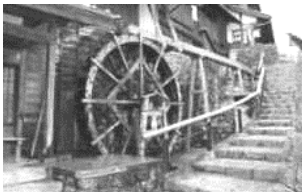
※「口頭弁論」終了後、場所を移して弁護団による報告集会（ポイントを解説）を行います

—今、身近で使いやすい“水の力(小水力発電)”に期待が高まっています!—

② 11/18(日) 総会&現地見学会「馬籠小水力発電所と中津川りんご農園」

＜問合わせ先：「阿寺溪谷を愛する下流市民の会」事務局（加藤宅 TEL/FAX (052) 811-8069）＞

“世界一危険”な浜岡原発の廃炉と、自然・再生エネルギーの普及の旗を掲げる「阿寺の会」では、現地見学会＜「馬籠小水力」（宿場の農業用水を活用）、そして中山間地の観光農業・中津川「りんご農園」＞を企画しました。皆さまふるってご参加下さい！



馬籠小水力発電1号機

なお、「総会」は本見学会の往路バス車中で行います。

*と き：11月18日(日) 午前8時30分（8時15分集合）

～午後4時15分（帰着予定）

*集 合 名古屋市役所本庁舎前（地下鉄3番出口）・東側歩道

*参加費 5千円（マイクロバス代・昼食代・資料代を含む）

—水郷水都全国会議は、全国の水環境を守る市民のネットワーク—

③ 雪と湧水の“縄文の里”で水環境を考える 第28回津南大会

＜問合わせ先：「津南大会実行委員会」委員長（中山宅 090-4969-3777、HP <http://www.sui.sakura.ne.jp>）＞



*と き：11月24日(土)午後1時～25日(日) 正午

*会 場：津南文化センター（新潟県津南町下船渡丁 2806-3）

（上越新幹線「越後湯沢駅」から送迎バス利用可）

*内 容 24日：基調講演

●「大河信濃川が育んだ縄文の里」

佐藤 雅一氏（津南町「農と縄文の体験館」学芸員）

●「川とは？ 水枯れの大河・信濃川に鮭の道を拓く」

大熊 孝氏（水郷水都全国会議共同代表、新潟大学名誉教授）

24日～25日：4つに分かれての分科会

*参加費 2千円（但し、11/25夜の「交流会」参加は5千円）